

会派視察報告書

大崎市議会 政務活動概要報告書
平成26年 3月25日 提出

1. 視察概要

会派名	大志会
視察者名	山村康治 相澤孝弘 相澤久義 関武徳 富田文志
日時	平成25年7月21日～23日(3日間)
視察先	1. 大分県日田市(三和種類株式会社日田蒸留所) 2. 愛知県宇和島市 3. 大阪府田尻町
出席者	

2. 視察内容

視察項目	(1) 焼酎の蒸留製造 (2) 姉妹都市における今後の市民交流の進め方 (3) 大規模災害「東海、東南海、南海、3連動型巨大地震」発生時の役割など
視察内容	<p>(1) 三和種類株式会社は、従来の焼酎粕は環境面で大きな課題であったが、平成21年4月揖田グリーンバイオ事業所を新設し、焼酎粕の一部をメタン発酵させてバイオガスを取り出す設備設け、バイオガスを燃料とした焼酎粕を濃縮・乾燥し、飼料の原料を製造している。この製造過程でできる「もろみ」は、実は栄養の宝庫で、厳選された大麦、丹念に育てた大麦麴と酵母による発酵、この複雑な発酵過程で、何十ものアミノ酸や大麦を由来とする栄養素がつくれ、その中にはポリフェノールやギャバ、オリゴ糖、クエン酸など毎日の健康維持に大切な栄養素が含まれており、独自の技術によってとりだし発酵大豆エキス、虚空蔵麦酢、黒ギャバを販売している。大崎社市はササニシキ、ひとめぼれの生誕の地であり酒造会社も5社ある。生産者、酒造会社、JA等のコメ集荷業者、行政が一体となって商品開発、販売戦略を図り、世界へ発信したい。</p> <p>(2) 宇和島市とは、伊達家つながりの縁をもって、旧岩出山町から大崎市が引き継ぎ姉妹都市締結を交わし、岩出山地域を軸に交流が継続展開されている。そして、東日本大震災の折には、多大の支援をいただき、本市の復旧・復興に取り組む被災市民に希望の力をいただいた。さらに、去年は災害支援相互協定を締結し、姉妹都市の絆をさらに強めたところである。しかしながら、市民全体の交流意識や親近感の醸成については今後の課題といえる。</p> <p>当会派では、姉妹都市における市民交流の拡大を図るべく、その具体的ポイントを見出すため調査を行った。</p> <p>宇和島は、リアス式海岸と瀬戸内海に面し、豊後水道の恵まれた海流に育つ、関サバ、関アジに代表される豊かな漁場を有し、陸では急峻な傾斜地を切り開き、みかんをはじめ柑橘果木を中心とした果樹栽培の半農半漁で生計を立て、地域経済を支えてきた歴史を有している。したがって伝統の食や風習、地域文化、産業分野において、大崎市にはない、市民交流の魅力・効果を高める未知のポイントを有している。</p> <p>特に、遊子水荷浦の段畑、養殖業(真珠、ハマチ、鯛)と食文化、うわじま牛鬼まつりと闘牛、伊達博物館など新たな交流のプログラムの可能性がたくさんある。しかしながら遠距離にあることから、市民の自発的な頻繁かつ各世代広範は相互訪問交流には難しさがあり、行政の積極的な支援が欠かせないものである。さらに、市民に広く交流への関心を巻き起こすうえで、まずは物産や歴史文化・伝承技術の交流、まつりイベントの交歓参加、児童・生徒の体験交流相互派遣等、一歩ずつ積み上げる具体的取り組みが必要かつ有効であることを確信した。</p> <p>(3) 田尻町は海辺の標高の低い立地の自治体で、近い将来起こると予想されている東南海3連動型巨大地震に対する取り組みを進めるため、平成24年10月に危機</p>

	<p>管理対策PTを消防と防災担当3名でスタートした。</p> <p>これまでの取り組み実績としては、大崎市との災害相互応援協定(平成 25 年 6 月 1 日)に先立ち、平成 25 年 1 月に全国ミニ団体(3大都市圏のミニ団体、7自治体)との災害時における相互応援協定を締結したことや災害時の物品等の供給締結、消防ポンプの大崎市への寄贈、防災行政無線の難聴対策(HPと防災メールの活用)などが紹介された。</p>
<p>他会派との 合同実施</p>	<p>・有 (会派名:会派に属さない議員)</p>

以上